

リレーインタビュー 12月8日(日)9:00~10:20

メニュー

裾野市東地区おやじの会

発表者:小田 圭介

インタビュアー:中尾 治司

生石子どもいきいき教室

発表者:濱田 玲子

三村 由美子

インタビュアー:遠藤 敏朗

田之筋地域づくり活動センター

発表者:上甲 啓一郎

インタビュアー:森分 洋樹

今年度より20回まで、過去に発表された団体の中で、大勢の方と共有したいと思う団体の発表を紹介します。

それぞれの個性的な活動の中にはっとさせられる言葉や多様性を感じ、みなさんの今後の参考になればと思っています。



裾野市東地区おやじの会

夜、お風呂も食事も済ませてから、小学校の体育館で翌日の7時まで寝るだけの活動。月1で開催している。2012年9月よりスタート。地域住民が主体である。社会人として、将来のよき隣人として、人ととの有効な関係を築きたい。コミュニティも多様化して、気のいい人と仲良くつながっていると、隣近所とは仲良くする必要がないと考えがち。しかし、それでは生きていけない。

地域は、住民みんなでより良くしていく。横のつながりや有効な関係を築きながら、「やりたい人がやる、やりたくない人は邪魔しないでね」と言っている。朝の7時まで寝るだけの関係だけれど、人と人が関わる場。小学生と中学生が関わってもいいし、中学生だけでもかまわない、自由に。夜は中学生の自治に任せているが、朝掃除等、月1の関係だけでは終わらない。中学生は勉強が最優先だけれど、中学校3年間、居住地域とかかわることができなければ、いつかかわるのか、全体の何割が居住地域に帰ってくるのか。地域をポジティブに受け止められているのか。花を咲かせるのではなく、その土壤づくりだと思っている。

人と人がつながる様々な交流を考え、豊かにアナログでつなげることが、豊かな土地を耕すことになる。先生との関係、家庭での関係が崩壊しても、社会教育における直接のつながりで変わっていく。何もしない集まりだけの場、社会に一番必要だと考えている。

社会教育の聖地、島根県益田市で講演をした。そこで、社会教育による学び、行動変容による学び、遊びの場、いかに多様に知り合う場をつくれるか。目的に囚われるのはやめて、計画にそってプレゼンをする方法等学んだ。

生石子どもいきいき教室

放課後子ども教室に関わっている人、20人弱。2006年より、生石公民館長からの依頼はじめた。月曜日から金曜日、平日4回。小学校の空きスペースを利用している。宿題やおもちゃ遊び、外遊び、それがやりたいことをしている。木曜日は工作教室で地域の名人がくる。金曜日は算数教室。自分たちで解いて地域の人が採点する。スペシャル教室、展示教室、子規さんかるた大会、附属高等学校の理科実験室の実施等、3月には地域医療教室も開催予定。

一押しは自由教室。自分たちで好きなことを見つけて過ごす。時間をたくさん提供すると、自分たちで組み立てている。無理強いはしない。

学校で言いにくいことやストレス発散の場所となっている。「ああすると子どもが喜ぶ」といいながら自分が一番喜んでいる人など、地域の人にとっても居場所のようだ。

—スタッフにとっても、大事な場所。ストレスがあっても仲間でいられて助かっているところがたくさんある。

—近所のおばちゃんで、声をかけていただきかかわっているが、子どもはこんなにかわいいのかと思った。孫がきておばあちゃんになったが、90歳までは無理かもしれないが頑張りたい。

—普通のおばちゃんの言葉、これが大事。普通の感覚の中で子どもは育つ。

転換と適応、自分の居場所をみつけること。話しかけても反応の少ないおとなしい子がいた。スタッフは心配したが、パズルがよかったです。今年になって、勉強するようになった。誘わなくとも自分の居場所をみつけるようになった。子供が適応できるようにスタッフが寄り添うことがよかったです。

来ないといいつつ来る子がいる。どのように育つか楽しみ。居場所として配慮しながら継続していく。来たくない子は来なくていい。現在、子どもたちは応募して抽選。少しでもたくさん参加してもらえるようにしていきたい。素朴な、土壤づくりが必要だと思う。

田之筋地域づくり活動センター

私は、ずっと田之筋に住み続けている。誰でもできることを誰よりもやることを心がけている。市役所に務めているが、行政でできること等、地区で実践している。高齢化率40%、しかし、95名の小学生、園児は51名、人口1580名の地区である。生徒数が増えている。先ほどの小田さんの話ではないが、土壤改良してそれが根付いている。愛媛県では、公民館発祥の地第1号である。

トランポリン教室やボルタリング教室等、地域づくり協議会と一緒に盛り上がっている。90%が自治会に加入、地域の困りごとは地域で解決する。市からの交付金もいただいている。平成29年からわらアート作成。子どもが喜ぶため、ずっと続いている。欲しい方には、15万円でわらアートを請け負っている。先日愛媛新聞にも掲載された。SNSも発信して、2000人程の人がきてくれた。地域がやるのであれば行政はストップをかけないので、宣伝してお客様を集めた。

空き店舗をサードプレイスに。公民館の前、JAの空き店舗を開けることから始めて、産直市、フリースペース。みんなの図書館、そば打ち等500円払っていろいろな活動ができる。意図しない会なので、いろいろなイベントへもつながる。コミュニティは広がりつつある。コロナが真っ最中のときも、子どもたちが楽しみにしている合宿を行った。Facebook等で地域の発信をしていると、民放のアナウンサーが取材させてほしいと連絡があった。ラジオ番組も一緒に収録した。

子ども教室も地域の人がやりたいといってきた。なかつたらつくるという土壤ができているので嬉しい。玉ねぎ栽培等は売って循環も図っている。人口は維持。移住者も増加している。

地域の人主導で、行政に頼らないでやっている。地域で稼ぐ力を身に着けようと経済も循環している。

若い人にも来てもらいたいので、ネーミングにも工夫している。田の筋テラス、田の筋マルシェなど。歴史とか地域の人のやり取りとかバックボーンとか意識している。

自分たちの場、喜ばれるのが嬉しい。

今回のキーワード

土壤づくり

自分たちの地域活動で、喜ばれる喜び



おでん∞カフェ 12月8日(日)10:30~12:20

おでんカフェ？

讃岐先生のごちゃまぜ理論とワールドカフェ方式を一緒にしたもの。

Café のようなリラックスした雰囲気の中で、少人数(5~6 人)に分かれたテーブルで自由に語り合います。

一定の時間が過ぎると、ホストを残して、別のテーブルに着きます。そこで、新たな仲間と話を深めます。(最初のメンバーと重ならないよう移動します)それを何回か繰り返します。

移動可能な自由でオープンな設定により、会話を楽しみ、参加者がテーマをもとにして、相互理解をすることを目的としています。問題解決や結論を求めるものではありません。

ホストの役割は、メンバーに簡単な自己紹介と、前回のテーブルで話された内容を新しいメンバーに説明して、そのことからイメージする発想などを深めること。

最後は、他のテーブルに散ったメンバーが最初のテーブルに戻り、移動先での内容や知り得た情報、さまざまな意見やアイデアを話し合います。さらに、各テーブルで話されたことを全体で共有します。

メニュー

分散会および交流会の振り返り

おでんクイズ

おでんワールドカフェ

つないだ内容を話し合う



回し人

舟田 美加

今回のお題

みんなの
地域教育！

昨年度に引き続き、今年度も NPO 法人おのみち寺小屋の学生を中心とした若いファシリテーターです。

若い人も、そう若くない人もごちゃまぜになって、新しい気づきを探ります。



全体で

- A:目標をもって、3年後どんな人になっているか、挑戦する。共通項はつながり。ポジティブな場、学べる場をつくる。漢字一文字で表すと「幸せ」愛、愛くるしい場でありたい。
- B:負担感0に。何を負担と思うか。若い世代に負担を感じさせない、思わない姿を。まずは実行。そして、つながりが大切。同じ志を持った人とこれからもつながっていく。
- C:つながりがキーワードの場づくり。来たくても来れない人には、こちらから行く。限られた場所だけではなく、どこでも出かけていく。ギブアンドテイク、してあげたからといってお返しを求めてはいけない。楽しいわくわくを共有するのも大事。みんなでつながりを大切にする。
- D:子どもがいないという現状。ぜひ、住んでいた地域に帰ってきてもらいたい。そのためにはつながり。つながりは出会いの場であったりする。時間の共有でより帰りたくなる地域に。どんな場所であればいいか。ほっとする場、心が楽しいと感じられるところ。自分の素顔を見せられるところ。まずは、自分から1歩踏み出す。
- E:仕事とプライベートの両立が難しいと思っても、自分だけで悩まない。型にはまらないでほしい。地域ごとに継続することの難しさがある。地域を大切にすることで、見えない支えができる。

—「みんなの地域教育」というテーマ。みんなと地域教育、仲間がいるって心強い。3回に向けてバトンを渡す。『かかわりをチカラにつながりをカタチに』讃岐先生が思い描いていた交流集会に近づいているか、問いたい。

